



写真：アスパラガス L 字栽培(母基地際押し倒し法：特許第 4941930 号)

トピックス

アスパラガスL字栽培の専用資材「らくとれ〜る」が製品化 〜現地導入も進む〜

栽培技術研究部

アスパラガスの収穫は繁茂した母茎群落にもぐり込んで収穫する大変な作業です。農業技術センターでは、立茎時に若茎を専用資材で畝の一方に押し倒して立茎するL字栽培(母茎地際押し倒し法)を開発しています(図1, 2)。これにより、収穫する若茎を見つけやすく、群落にもぐり込むことなく採ることができます。

この度、東プレ株式会社から本栽培法における若茎の押し倒し専用資材「らくとれ〜る」が製品化され、大信産業株式会社から販売されています(図3)。資材を手軽に入手でき、早速、L字栽培に取り組む生産者もいらっしゃいます。(農)東河内の里では、収穫が楽になったと好評いただいております。

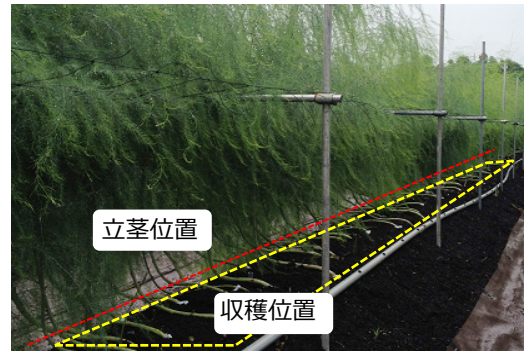


図1 L字栽培法(母茎地際押し倒し法)



図2 若茎の押し倒し状況



図3 専用資材「らくとれ〜る」

成果情報

新規忌避剤で半促成トマトの黄化葉巻病の制圧に成功！

生産環境研究部

当センターは石原産業(株)と共同で食品添加物由来の忌避剤ベミデタッチ®乳剤をトマトに連続散布することでタバコナジラミが引き起こす黄化葉巻病(TYLCV)や着色異常果の発生を抑制できることを明らかにしました。そこで、広島県沿岸部の半促成トマト産地で現地実証を行いました。定植後2か月間は1週間間隔で、冬期は約2週間間隔で忌避剤を散布したところ、タバコナジラミと黄化葉巻病の発生を殺虫剤散布の慣行区と同等に抑制できました(図1, 2)。半促成トマト栽培では、定植後の早期に感染すると黄化葉巻病の被害が大きくなるので、定植後から1週間間隔で5回程度を目安にこの忌避剤を散布することで、この病害の防除効果が期待できます。

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)を活用しています。

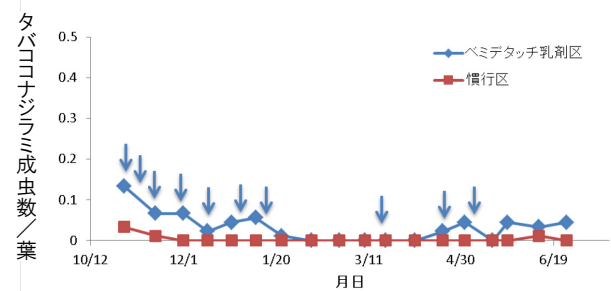


図1 半促成トマトでのタバコナジラミ発生推移
(青矢印はベミデタッチ乳剤散布を示す)

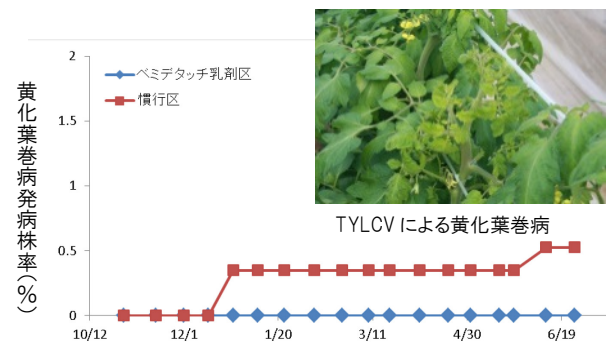


図2 半促成トマトでの黄化葉巻病発生推移

研究紹介

ウンシュウミカン「石地」の夏1回施肥による省力化技術

果樹研究部

ウンシュウミカン「石地」の施肥は、慣行では年3回(3, 5, 10月)に分けて行います。一方、高品質な果実生産のため、シートマルチ栽培が増加しています(図1)。シートマルチ栽培では、秋肥施用の際にシートの開閉を伴うため、シート被覆前の年1回施用で省力化が実現できる夏1回施肥法を開発中です。

肥効調節型肥料(商品名:粒状配合中晩柑一発358)を夏肥時(5月下旬)に施用した場合、肥料溶出のための土壌混和時間を加えても、施肥作業時間を年間50%程度削減できました(図2)。また、過去2年間の試験では、施肥量を25~50%削減しても、収量、果実形質等は慣行と差がありませんでした。今後は、連年処理の影響を評価し、県内産地への普及を目指します。



図1 「石地」の主幹形シートマルチ栽培園

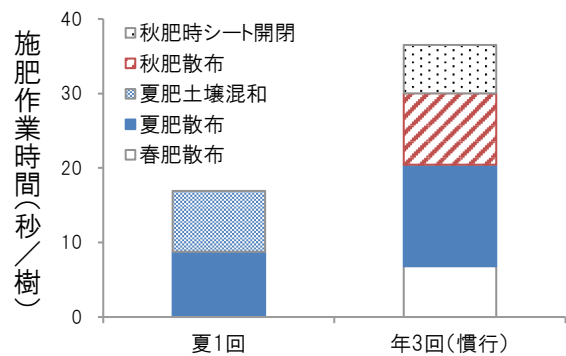


図2 年間の施肥作業時間の違い

事例紹介

低樹高で初期収量が高いレモンのアーチ栽培で、新たな低コストアーチ支柱を実証

果樹研究部

レモンについて、当センターでは、低樹高で収穫初~3年目の面積当たり収量が慣行の開心自然形に比べて1.6倍以上となる「アーチ栽培法」を開発しました(123号に関連を掲載)。

アーチ栽培では、市販のパイプ支柱で作成したアーチ棚に枝を固定しますが、導入者からは、パイプ支柱費用の削減が求められていました。そこで、生産技術アカデミーと共同で、曲げ強度が強い素材を探索・採用し、支柱構造にクロス状の補強等を加える構造を新たに考案しました(図1, 図2)。新たなアーチ支柱構造では、従来に比べて、材料費が25%安く、安全率1.6※を確保できます。

※レモン樹の自重と広島県で20年に1度の強風(平均20m/sの風が10分間吹いた)を想定した場合を基準として、何倍の力まで耐えられるかの数値

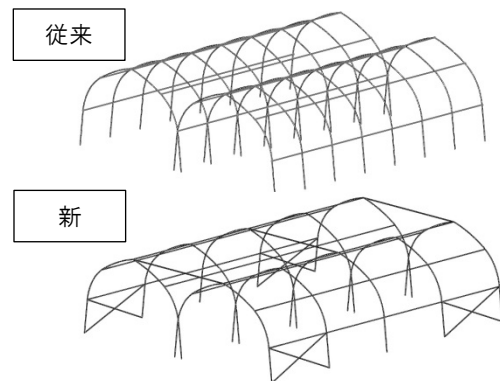


図1 従来のアーチ支柱(上)と新たな低コストアーチ支柱(下)

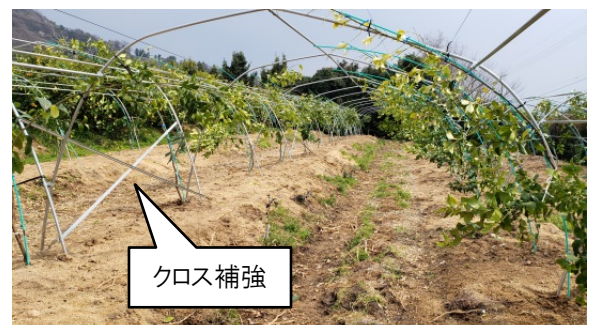


図2 現地での導入事例(尾道市瀬戸田町)

農業技術センター研究部紹介（3）

栽培技術研究部

当研究部は、水稻や野菜、花きに関する栽培技術の開発に取り組んでいます。

近年は、ICTやAI等、スマート農業技術を取り入れながら、地域の気象や消費者ニーズに即した品種選定、収量・品質を向上させる栽培法や環境制御技術、作業を効率化・快適化する栽培管理技術等の開発を進めています。

皆様に役立つ技術を開発するため、我々は「何が現場で求められているか」、「どうすれば現場で使ってもらえるか」を常に自問しながら進めています。悩む場面も多ありますが、その答えは必ず生産現場や生産者の方々との対話の中にあると考えています。

機会を見つけては、現地に赴き皆様と対話を進めたいと思います。その際は、ぜひ、忌憚のないご意見やご助言をお寄せください。



栽培技術研究部 部長 伊藤栄治

研修会

アスパラガス栽培研修会を開催します（生産者向け）

日時：令和元年8月23日（金）13:30～

場所：農業技術センター（講堂および圃場）東広島市八本松町原 6869

内容：L字栽培技術と現地の取組状況の紹介、アスパラガスのその他栽培技術の紹介

専用資材の使用方法の実演、ポイント説明

※圃場で実際の作業方法を実演します

お問合せ：082-429-3066（栽培技術研究部）

受賞・表彰

園芸学会 園芸功労賞を受賞しました

受賞者：梶原真二 生産環境研究部長（受賞当時）

受賞内容：「バラ切り花栽培技“ハイラック仕立て法”の開発と普及」

受賞日：平成31年3月23日



農業技術センターNews No.128

令和元年7月12日発行

編集発行 広島県立総合技術研究所

農業技術センター技術支援部

〒739-0151 広島県東広島市八本松町原 6869

TEL: 082-429-0522（技術支援部）

E-mail: ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp